



白山手取川ジオパーク推進協議会は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

白山手取川ユネスコ世界ジオパーク アクションプラン 2024～2028



白山手取川ジオパーク推進協議会

目 次

I	アクションプラン策定の趣旨	1
II	ジオパークのテーマとジオストーリー	3
III	行動計画	
1	保護・保全	5
2	教育・研究	8
3	地域振興	12
4	マーケティング	16
5	ネットワーク活動	18
IV	運営体制	
1	組織体制	21
2	財政計画	22
※参考	構成団体一覧	23
	連携協定団体一覧	24
	ユネスコからの指摘事項について	25

I アクションプラン策定の趣旨

1 経緯

白山市では、ジオパークによる地域づくりを目指し、2010年11月に、官公庁、大学や観光・経済団体等28団体（2024年3月現在は36団体。以下、「構成団体」と称する）が集まり、官学民連携による「白山手取川ジオパーク推進協議会（以下、「推進協議会」と称する）を設立しました。白山手取川ジオパークは、「水の旅」「石の旅」をテーマとして、地域資源の調査や普及・啓発活動、教育活動、公認観光ガイドの養成並びにジオツアーの開催等の活動を進め、2011年9月に日本ジオパークの認定を受け、2015年9月と2019年12月には日本ジオパークの再認定を受けました。また、2022年10月には、ユネスコ世界ジオパークの現地審査を受け、翌2023年5月に、白山手取川ユネスコ世界ジオパークとして認定されました。

現地審査後に公開された審査結果報告書では、特に地域との良好な関係、教育活動や大学との連携、生態系や文化遺産の保護・管理、持続可能なツーリズムへの取り組みなどが高く評価されました。一方で指摘事項では、ビジビリティ（可視性）やパートナーシップの改善、地質遺産の情報発信と保全などにおいて解決すべき課題が挙げられました。今後もジオパークによる地域遺産の保護、教育・科学の普及、ジオツーリズムの活性化、ジオパークネットワークへの積極的な働きかけなど、ユネスコ世界ジオパークの一員として積極的に活動していくことで、持続可能な地球環境の実現に貢献することが求められています。

2 目的

持続可能な地球環境へ貢献することを目指し、未来まで白山の恵みをまるごと受け継ぎながら、活用し発展させるため、5年間の計画期間で行う具体的な行動を定めたアクションプラン（行動計画）を定めることとします。また次のユネスコ世界ジオパークの2026年の再審査を見据え、2023年の認定時の指摘事項の改善を図るとともに、さらなるジオパークの発展を目指します。

3 アクションプラン策定時の方針

（1）持続可能な地域づくり

ジオパークは、地質遺産の保護、教育・科学の普及、ジオツーリズムの推進による継続的な地域活性化に関わってきました。また地球科学の視点から見るとの風土やそれに適応した先人達の営みを中心としたジオパーク学習・ネットワーク活動を通じた他地域との交流により、地域に根ざした「人づくり」を効果的に行うことができると考えています。地球科学の視点を手に入れ、住んでいた地域を改めて見ることで、これまで見えていたものの新しい側面や今まで見えていなかったものが見え始め、地域資源の再評価・再認識が期待できます。ジオパークでの学びが持続可能な地域づくりへとつながるよう、ジオパーク活動を進めます。

(2) つながり重視したストーリーづくり

白山手取川ユネスコ世界ジオパークには、山から海までの多種多様な資源があります。加えて大地の遺産だけでなく、動植物や文化・民俗の遺産も数多く存在しています。この好条件を活かし、個々の資源のつながりを重視したストーリーづくりを進め、地質多様性・生物多様性・文化多様性の生み出す相乗効果を最大限に引き出し、ジオパークが身近な生活と密接にリンクしているという認識を広げます。つながりを考える際には、「水の旅」「石の旅」をキーワードとすることで、地域の特徴とストーリーがより伝わりやすくなります。

(3) ネットワークを構築し、ネットワークから学び、発信、貢献する

ジオパークにとって、人的ネットワークづくりは重要な活動であると考えています。ジオパーク活動の推進は、行政の力だけでは困難であり、一人でも多くの住民の理解を得て協働することが不可欠です。このため、ジオパークの理念を普及させ、活動を理解し支える人達のネットワークづくりを進めます。またネットワークづくりは、国内外のジオパークとのネットワーク、ユネスコエコパークに取り組む地域とも進めます。日本、そして世界のジオパークネットワークの一員となることで、日本全国や世界中に向け白山手取川ユネスコ世界ジオパークならではの防災知識や地域の魅力を発信するだけでなく、白山手取川だからこそ生み出せるつながりを重視したストーリーが地球規模の課題を考えるうえで重要であることを発信します。

また、地域の持続可能な発展に取り組むチャレンジ活動を世界の様々な地域と共有し、ネットワーク全体の発展に寄与します。ネットワーク活動を通じて、白山手取川ユネスコ世界ジオパークの対象地域だけでなく多くの地域と共に後世に残せる豊かな世界をつくれるよう、今後の発展に貢献します。

4 計画期間

2024（令和6）年度～ 2028（令和10）年度

5 事業主体

事業全体のコーディネートは推進協議会が行い、個別の事業についてはそれぞれ構成団体等が分担して担うものとします。

6 評価

アクションプランは、毎年、進捗状況の評価していきます。

※以下、★は重点項目を示します。

※以下、■は2022年の審査時の指摘事項に対する対応を示します。

番号は指摘事項の番号に対応しています。

※以下、前プラン評価 ◎：十分進んでいる ○：進んでいるが課題がある

△：あまり進んでいない ×：全く進んでいない

※以下、前プランとの関係 「継続」、「修正継続」は前プランにおいて項目があったもので、今後同様に継続もしくは修正して継続して実施するものを示します。

※以下、⇒：継続実施 ◇：新規実施もしくは大きなアクションの実施

Ⅱ ジオパークのテーマとジオストーリー

白山手取川ユネスコ世界ジオパークのエリアで進める活動はすべて、以下のストーリーを意識して行っていきます。このストーリーを共有し活用を図ることで、ジオパークプログラムが目指す3つの大きな目的と持続的な発展を達成することにチャレンジします。

1 ジオパークのテーマ（キャッチフレーズ）

「山－川－海そして雪 いのちを育む水の旅」

白山手取川ユネスコ世界ジオパークは、恐竜よりも古い時代から長い年月をかけた「大地の成り立ち」と現在起こっている「水の旅（水循環）」との中で生まれた地形と自然、そして、「私たちの生活」との関わりを楽しく学び、体感することができる場所です。

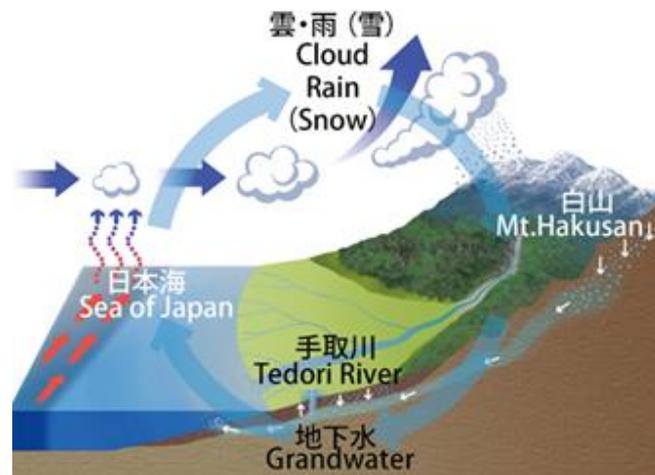
2 ジオパークのストーリー

“水の旅” と “石の旅”

白山手取川ユネスコ世界ジオパークにおいて地球科学的に世界的価値を持つものは、手取層群とその産出化石であり、それを代表するジオサイトが桑島化石壁です。明治時代初期から調査研究が行われ、現在では多種多様な動植物の化石が発見されています。化石が発見されるということは、そこに堆積岩の存在があります。堆積岩は川や海などの水の作用により、ほかの場所から石や砂などが運ばれ、それがたまり固まることでできます。これは地球に水が誕生して以来、過去からずっと続いている過程です。水などが大地を削り、削られた大地のかけらが別の場所へ運ばれていきます。過去に起こっていた“水の旅”と“石の旅”を特徴的に示しているのが、桑島化石壁をはじめとする手取層群とその産出化石になります。そしてこの“水の旅”と“石の旅”をより身近に感じることができる場所が、桑島化石壁や手取層群を含む手取川流域で、白山手取川ユネスコ世界ジオパークのエリアです。

日本列島の日本海側は、低緯度帯でありながら、世界でも有数の豪雪地帯です。その背景には、日本海と季節風、そして脊梁山脈（主要な分水嶺となる山脈。専ら石川県では白山となる。）の存在があります。冬、ユーラシア大陸からの乾燥した季節風が日本海を渡る間に、暖流の対馬海流が流れる海面から水蒸気の供給を受け、湿った空気となります。この湿った季節風が、脊梁山脈にぶつかることによって上昇気流となり乱層雲を形成して、大量の雪を降らせます。冬に山間部に降り積もった大量の雪は、春の雪解けとともに川となって斜面を流れ下り、ときには地下水となって、日本海へと流れ込みます。そして海水が蒸発して再び水蒸気となり、それが雲をつくり、再び雪や雨として地上に舞い戻ります。

海から山、山から川、川から再び海へと戻る水の循環が、日本列島の日本海側で見られる“水の旅”となります。白山手取川ユネスコ世界ジオパークでは、この“水の旅”（水循環）の縮図、すなわち、日本海から白山へ、白山から手取川へ、手取川から日本海へ、そして再び日本海から白山へという“水の旅”を見ることができるのです。



この“水の旅” とともにあるもう1つのテーマが、“石の旅” です。白山から手取川、そして日本海へと水が旅していく過程で、大地は削られ（浸食）、削られた石や砂は川によって運ばれ（運搬）、そして平野部で溜まって（堆積）、扇状地を形成します。この浸食、運搬、堆積の流れが“石の旅”であり、その過程では、土砂生産、峡谷や河岸段丘、扇状地の形成といった、地形形成過程を見ることができます。

こうしてつくられた大地の上に、多様な動植物が生息する豊かな生態系が存在し、またそこから受ける恩恵のもと成り立ってきた人々の多様な文化や暮らしなどがあります。さらに、この地を形づくっている地球科学的な過程は、時に災害として人間に認識されることもあります。恩恵を受ける中で多様な自然災害に向き合ってきた歴史もあります。白山から日本海という比較的コンパクトなエリアの中に見られる山から海までの多様な地域の風景が、“水の旅”と“石の旅”とつながっています。白山手取川ユネスコ世界ジオパークは、暮らす人々にとっては日常的な風景でありながら、地球の壮大なストーリーを垣間見ることができます。

Ⅲ 行動計画



1 保護・保全

白山手取川ユネスコ世界ジオパーク内には、「白山国立公園」、「白山一里野県立自然公園」、「獅子吼・手取県立自然公園」の3つの自然公園があり、多くのサイトがこの区域内に位置しています。

有形・無形文化財には、国指定 28 件、県指定 28 件、市指定 344 件の合計 400 件が指定されているほか、37 件が、国登録有形文化財に登録されています（2024 年 3 月現在）。このうち一部の天然記念物等はジオサイトやその他のサイトとなっています。

白山国立公園は、その区域や活動が発信され積極的な保全活動が進んでいますが、県立自然公園は、区域表示やパンフレット等による情報発信量が少ないことから、利用者への周知が課題となっています。また、国や県指定の史跡及び天然記念物は、説明看板や保護柵などが整備されていますが、その他の文化財は整備途上にあります。そうしたことから、県立自然公園や市指定文化財などの周知を進めていくことが必要です。

近年では、外来種による生態系への影響も無視できません。エリア内の保全に関わる諸問題に対しては、各管理権者や利害関係者と密に連絡をとれるよう体制を整備し、協働してモニタリングや原因調査などを推進します。また、少子高齢化などにより地域固有の伝統や文化の存続が危ぶまれているため、積極的に伝統文化のPRや連携事業を行います。

(1) 地域遺産の周知と意識づけ

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プランとの 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	サイトを再整理・再分類し、リストをWEB上で公開するとともに、サイトカルテを作成します	学術会議、推進協議会事務局		修正 継続	⇒	⇒	◇	⇒	⇒
②		講演会や研修会等の教育活動・普及啓発活動やツーリズムの場を通じて、自然公園や文化財をはじめとする、地域遺産の存在と意義を周知し、保全活動への意識を高めます	白山市（環境課、文化課）、環境省白山自然保護官事務所、石川県白山自然保護センター、白山市観光連盟、公認観光ガイド、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) 保護・保全活動の推進

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プランとの 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①		海ごみの清掃プロジェクトや海ごみ問題の啓発活動を実施します	白山市（環境課）、協議会構成団体、公認観光ガイド、学習支援員、連携協定団体、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
②		ジオパークを訪れる人に対し、ごみを捨てないなどのマナーやルールを普及・啓発します	白山市（環境課、観光課）、環境省白山自然保護官事務所、白山市観光連盟、協議会構成団体、公認観光ガイド、学習支援員、連携協定団体、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
③		鳥越城の整備を進めます	白山市（文化課）		新規			◇	⇒	⇒
④	■ 3	オーバーツーリズムに関する勉強会を開催します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤		希少種を含む在来動植物や外来動植物に関する勉強会を開催します	白山市（環境課）、環境省白山自然保護官事務所、石川県白山自然保護センター、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		手取川の河川環境や生物多様性の維持への意識を高めます	白山市（環境課）、国土交通省金沢河川国道事務所、環境省白山自然保護官事務所、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦		イワナなどの在来魚種の保存を推進します	白山手取川漁業協同組合		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧		多様で健全な森林の保全活動を推進します	石川県石川農林総合事務所、かが森林組合		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑨	■ 2	伝統工芸や文化のPRやコラボ事業を推進します	白山市（商工課、文化課）、連携協定団体、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) 監視活動と情報共有

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プランとの 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①		協定に基づく団体による監視活動を推進するとともに、定期的な研修の導入などにより、実効性をもたせます	郵便局、北陸電力、連携協定団体、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

②	★	モニタリング等の結果を情報共有する場を設けます	白山市（環境課、観光課、文化課）、石川県文化観光スポーツ部、石川県石川土木総合事務所、石川県石川農林総合事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、気象庁金沢地方気象台、環境省白山自然保護官事務所、林野庁石川森林管理署、金沢大学、石川県立大学、金沢工業大学、石川県白山自然保護センター、かが森林組合、白山手取川漁業協同組合、推進協議会事務局、その他利害関係者	修正 継続	⇒	◇	⇒	⇒	⇒
③		扇状地伏流水の、地下水位状況をモニタリングします	白山市（SDGs・地方創生推進室、環境課）	継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
④		湧水域に生息する、県指定希少野生動植物であるトミヨの保護対策として、トミヨの生息調査等を実施します	白山市（環境課、文化課）、石川県立大学、石川県白山自然保護センター、美川自然人クラブ、平加町、【トミヨ保全対策連絡会】	継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤		外来種に対するモニタリングや生態系の維持に関する活動を、関係団体と進めます	白山市（環境課）、環境省白山自然保護官事務所、金沢大学、石川県立大学、石川県白山自然保護センター、白山ユネスコエコパーク協議会	新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		ホタルの生息調査を行い、水質などの自然保全に対する認識、関心を高めます	白山市（環境課、文化課）、白山市子ども会連合会	継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦	■ 3	来訪者数に関するモニタリングをします	白山市（観光課）、石川県文化観光スポーツ部、白山市観光連盟、	新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒



2 教育・研究

エリア内の小中学校において、総合的な学習の時間などを利用したジオパーク学習の取り組みが行われており、ジオパーク学習支援員のサポートのもと実施される学習プログラムとして定着しています。今後は、高等学校やエリア外の学校も含めより多くの学校で、SDGs（持続可能な開発目標）やESD（持続可能な開発のための教育）、地域の特色を活かした学びを意識した学習活動が展開されるように取り組むことが求められます。他にも、ネットワークを活かし他ジオパークの学校などと交流を行い、より広い目で社会を見る力を養います。

生涯学習においては、多くの大学と連携し、子ども向けの教育事業から地域振興事業まで多様な活動を展開しています。大学との活動においては継続した実施が課題となります。各地区の地域コミュニティ組織（コミュニティセンター）における活動においても、ジオパークを活用した事業が組まれており、多言語に対応するなど今後も幅広い内容の活動が期待されます。

防災教育については、令和6年能登半島地震を受けて地域住民の災害や防災への関心は高まっていますが、実際に知識は十分に浸透していないので様々な災害や防災についての教育や啓発をしていくことが求められています。

地球科学に関する調査・研究については、白山手取川ユネスコ世界ジオパークを主たる研究フィールドとして研究に携わる大学生・大学院生を対象に研究助成事業を実施しています。白山火山や手取層群に関する調査・研究はある程度進んでいますが、水循環と地形形成などその他のジオストーリーに関わる調査・研究は多くありません。

(1) 小中学校、高等学校及び大学における学校教育

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン評価	前プランとの関係	2024	2025	2026	2027	2028
①		研修会の開催などにより、学校教員のジオパークへの理解を深めます	白山市教育委員会、学習支援員、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②		学習支援員をはじめとしたジオパーク学習に関わる人材の確保を行います	白山市教育委員会、学習支援員、推進協議会事務局		修正 継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③		小学校・中学校におけるジオパーク遠足などの自然体験を通して豊かな感性を育むフィールドワークを推進します	白山市教育委員会、学習支援員、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
④		他地域のジオパークにある学校と交流し学習を行います	白山市教育委員会、学習支援員、ジオパークネットワーク、推進協議会事務局		新規		◇	⇒	⇒	⇒

⑤		ジオパーク出前授業等を実施し、学校教育における持続可能な開発のための教育を推進します	白山市教育委員会、学習支援員、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		桑島化石壁や白山恐竜パーク白峰などを活用して、手取層群産出化石の重要性について、授業内などで積極的に発信していきます	白山市（文化課、白峰化石調査センター）、白山市教育委員会、学習支援員、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦		エリア内の高校におけるジオパーク学習を推進します	鶴来高校、翠星高校、松任高校、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧		大学によるフィールド実習の実施を推進します	金沢大学、石川県立大学、金城大学、金城大学短期大学部、金沢工業大学、金沢星稜大学、北陸学院短期大学部、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑨		安全かつ効果的なフィールドワークを実施するための研修をフィールドワーク指導者向けに実施します	白山市教育委員会、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑩		小学校、中学校、高校、大学間で交流・連携し学習活動を行えるようにします	白山市教育委員会、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑪	★	エリア外の学校を対象とした学習活動やフィールドワークを実施します	石川県教育委員会、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑫	★	エリア内の小学校、中学校において、各教科の教育課程に、「白山ジオ学習」を位置づけ、学習を進めます	白山市教育委員会、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑬		子どもたちが学習成果を発信・共有する機会を設けます	白山市教育委員会、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑭		教育活動で使用できる資料や教材のデータベース化を進めます	白山市教育委員会、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) 多様な層を対象とした生涯学習

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プラン との関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	地域コミュニティ組織（コミュニティセンター）活動における地域見て歩きのような研修など、ジオパークの活用を推進します	白山市（協働推進課）、地域コミュニティ組織、推進協議会		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②		白山市の「まちかど市民講座」により、エリア内の各地で、様々な団体を対象に、ジオパーク講座を実施します	白山市（広報広聴課）、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③		「水の旅学」学習会やはくさん学び舎講座を実施し、白山手取川ユネスコ世界ジオパークについてより深みのある学習活動を推進します	白山市教育委員会、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
④		教育的な要素を重視した、子ども向けの生涯学習プログラムとして、「子どもジオパーク博士」を実施します	白山市教育委員会、金沢星稜大学、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤		楽しさや気軽に参加できることを重視した、子ども向けの生涯学習プログラムとして「感性のびのびジオ・サタデー」を実施します	白山市教育委員会、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		小学生、中学生の親世代に対するジオパーク教育推進のため、「親子体験教室」等を実施します	推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦		ジオ・クラブを設置するなど、ジオ活動に関わる人材を育成します	白山市教育委員会、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧		白山市の「ライン賞」により、化石・地質・地理をテーマとした小学生・中学生の調査・研究を表彰し地球科学分野の振興を図ります	白山市（文化課）		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑨		健康づくりを目的とした、ジオパークの活用を進めます	白山市（いきいき健康課）		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) 防災教育

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プラン との 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	学校教育や生涯学習の各事業 のなかで、防災的な要素を取り 入れた教育を推進します	白山市（危機管理課）、白山市教育 委員会、石川県教育 委員会、国土交通省金沢河川国道 事務所、気象庁金 沢地方气象台、環 境省白山自然保護 官事務所、林野庁 石川森林管理署、 金沢大学、石川 県立大学、石川県 白山自然保護セン ター、推進協議会 事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②		国内外のネットワークを活用 し、白山手取川ユネスコ世界 ジオパークならではの防災知 識や防災教育を広めていきま す	石川県教育委員 会、石川県石川土 木総合事務所、石 川県石川農林総合 事務所、国土交通 省金沢河川国道事 務所、気象庁金沢 地方气象台、環境 省白山自然保護官 事務所、林野庁石 川森林管理署、金 沢大学、石川県 立大学、石川県白 山自然保護センタ ー、推進協議会事 務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
③		災害に関する様々なデータを 読み取って理解する能力を育 成する機会を設けます	白山市（危機管理 課）、白山市教育 委員会、石川県教 育委員会、石川県 石川土木総合事務 所、石川県石川農 林総合事務所、国 土交通省金沢河川 国道事務所、気象 庁金沢地方気象 台、林野庁石川森 林管理署、金沢大 学、石川県立大 学、石川県白山自 然保護センター、 推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
④		ジオパーク内の自然災害に関 連する遺産を巡るジオツアー を実施します	白山市（観光課）、 白山市観光連盟、 公認観光ガイド、 推進協議会事務局		新規			◇	⇒	⇒

(4) 調査・研究

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン評価	前プランとの関係	2024	2025	2026	2027	2028
①		手取層群に関する調査研究を保全とのバランスを保ちつつ推進します	白山市（文化課、白峰化石調査センター）、白山市手取層群化石調査団、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②	★	手取層群に関する調査研究を一般向けに発信します	白山市（文化課、白峰化石調査センター）、石川県白山自然保護センター、白山市手取層群化石調査団、推進協議会事務局		継続	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
③	★	エリア内での研究活動や巡検等の受け入れを推進します	金沢大学、石川県立大学、金城大学、金城大学短期大学部、金沢工業大学、国連大学 IAS OUIK、石川県白山自然保護センター、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
④		研究助成を実施します	推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤		調査・研究資料をデータベース化します	金沢大学、石川県立大学、金城大学、金城大学短期大学部、金沢工業大学、国連大学 IAS OUIK、石川県白山自然保護センター、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		山間部において地域資源を活用し、経済循環を生み出す生涯学習エリアの構築を検討します	白山市（企画課）、金沢工業大学等		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

3 地域振興



2010 年度より推進協議会が主体となり、ジオパークのガイド養成、ジオツアーの造成、地域資源の再発見などを進め、2017 年度から公認観光ガイド認定制度を導入し、運営体制の整備を進めてきました。

DMO（観光地域づくり法人）である市観光連盟が、各種サイトまでの道案内はもちろん、ツアー相談なども対応できるツーリズムの拠点に位置づけられています。白山手取川ユネスコ世界ジオパークの特徴をより活かし、エリア全体を活用したツアーの造成や、公認観光ガイドのガイド力の向上などにより来訪者の満足度を高めファンを獲得します。ツアー造成にあたっては環境・資源・経済などの様々な観点からサステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）を意識します。ツアーの内容面では、単に地球科学の知識を羅列するもの

ではなく、施設や場所ごとに、ジオパーク全体のストーリーやテーマ、先人たちの暮らしの工夫などに基づいた解説を用いて親しみやすく理解しやすいものにすることが必要です。

その他にも、白山手取川世界ジオパークの3つのエリアを意識できるような表記を増やし、来訪者がエリアとエリアのつながりを意識できるようにしたり、QRコードなどを活用し情報にアクセスしやすくしたりすることが必要です。

また、ユネスコ世界ジオパークに認定されたことによる国外への発信の機会増加や認知度向上を活かし、外国人向けのツアーの開催などの国外向けの誘客活動の活発化が期待されます。

さらにアクセスできる場所が限られる冬季は、冬季ならではの魅力の発信やツアーの造成が求められています。

公認観光ガイドについては、活躍できる場を増やせるようエリア外に向けた誘客促進活動が必要になります。また、ガイドが生計を立てることができるような制度設計が求められています。

産業振興については、農産物や伝統工芸などの地域資源のPRや活用を行うことで安定した雇用につながる需要を増やしつつ、後継者確保のために職業紹介などのPR活動も併せて行っていくことが求められています。

基盤整備について、来訪者が最初に訪れて情報を得られるような拠点施設の整備を進めます。誘導については、道路敷の看板などにジオパーク表記を追加することにより、誘導看板としての機能を一定程度持たせています。一方で来訪者の窓口となるIR松任駅周辺や市街地などには設置が少なく、来訪者視点に立って充実を図ることが必要です。またジオパーク来訪以外の目的で白山市を訪れた来訪者にジオパークに興味を持ってもらうことが求められています。

外国人観光客の利便性向上に向け、店舗や施設をはじめとするジオパークエリア全体での多言語表記や英語などによる外国語ガイドや多言語音声案内、視認性の高いイラストを使用した解説板への修正など、多言語対応の強化が求められます。

(1) ツーリズムの促進と産業振興

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン評価	前プランとの関係	2024	2025	2026	2027	2028
①		公認観光ガイド養成講座及び認定制度を実施します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②	★	より満足度の高いツアーにするため、テーマ・場所等を設定したものを含めながら公認観光ガイドのスキルアップ講座を実施します	白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③	★	外国語に対応できる公認観光ガイドの養成を行います	白山市（観光課）、白山市国際交流協会、白山市観光連盟、推進協議会事務局、		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

④		アンケートなどを活用しニーズを把握しながら、登山やサイクリングなどを取り入れた興味を引くジオパークのツアーを造成します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、白山観光協会、北鉄白山バス株式会社、推進協議会事務局、		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤		地元特産品の食を利活用したツアーを造成します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		桑島化石壁や白山恐竜パーク白峰などを活用したツアーの促進を図ります	白山市（文化課、白山恐竜パーク白峰）、石川県文化観光スポーツ部、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦		個々のジオツアーのターゲットに応じた販売促進戦略を立てます	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧		多言語での表記も踏まえた、パンフレット、ガイドブックの整備を行います	白山市（観光課）、石川県文化観光スポーツ部、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑨	★ ■ 2 4	地域の自然に根ざした製品等のブランド化にジオパークやユネスコエコパークのストーリーとイメージ力を活用して販売を促進します	白山市（地産地消課、商工課、観光課）、石川県文化観光スポーツ部、白山商工会議所、美川商工会、鶴来商工会、白山商工会、白山市観光連盟、松任市農業協同組合、白山農業協同組合、推進協議会事務局		継続	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑩		ジオパークを活用した商品開発を行います	エリア内の各事業者、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑪		国内外問わず、誘客に関する取り組みを継続して実施します	白山市（観光課）、石川県文化観光スポーツ部、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑫		SDGsを連動させた教育旅行の誘致活動を推進します	白山市（企画課、観光課）、石川県文化観光スポーツ部、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑬		「水の旅案内人」に関する情報発信を来訪者向けにおこない、来訪者の満足度向上を図ります	推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑭		移動手段としてレンタサイクルの利用を促します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局、		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑮		白山周辺地域での新たな交通手段を検討します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局、		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒

⑯		オンライン予約システムやWi-Fi環境の整備を促進します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑰	■ 2	農林水産物を含む地域資源や伝統工芸の利活用を促進します	白山市（地産地消課、商工課）、協議会構成団体、連携協定団体、推進協議会事務局、		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) ジオパークの基盤整備

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プランとの 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	白山手取川ユネスコ世界ジオパークの情報発信やビジターセンターの機能をもった専用拠点施設の設置を進めます	白山市（ジオエコ課、施設管理課、文化課）、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
②	★ ■ 1 2	市立博物館、石川ルーツ交流館、白山恐竜パーク白峰を引き続きジオパークの情報発信の拠点として活用していきます	白山市（文化課、市立博物館、石川ルーツ交流館、白山恐竜パーク白峰、白峰化石調査センター）推進協議会事務局		修正 継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③		エリア内の関連施設において、ジオパーク解説の設置やロゴマークの追加表示を進め、ジオパークの関連施設であることをわかりやすくします	白山市（各施設及び管理者）、石川県教育委員会、石川県石川土木総合事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、気象庁金沢地方气象台、環境省白山自然保護官事務所、石川県白山自然保護センター、手取川七ヶ用水土地改良区、協議会構成団体、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
④		エリア内で新たに整備・改修などを予定する施設、看板等がある場合は、ジオパークを意識して進められるように国、県、市と連携します	白山市（ジオエコ課、施設管理課、土木課、都市計画課）、白山市教育委員会、石川県文化観光スポーツ部、石川県教育委員会、石川県石川土木総合事務所、石川県石川農林総合事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、環境省白山自然保護官事務所、林野庁石川森林管理署、石川県白山自然保護センター、協議会構成団体、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

⑤	■ 2	国、県などと連携しながら、主要なサイトにおける看板の整備を進めます	白山市（ジオエコ課、施設管理課、土木課、都市計画課）、石川県文化観光スポーツ部、石川県石川土木総合事務所、石川県石川農林総合事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、環境省白山自然保護官事務所、林野庁石川森林管理署、石川県白山自然保護センター、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		来訪者目線に立った誘導看板等の整備を進めます	白山市（ジオエコ課、土木課、都市計画課）、石川県石川土木総合事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦		I R 松任駅前や松任地域市街地の看板やパンフレット・マップの設置場所を増設します	白山市（観光課）、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧	★	外国人観光客に対する多言語表記対応を強化します	白山市（観光課）、石川県文化観光スポーツ部、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑨		ツーリズムにおいてみどころとなる、特に松任をはじめとする平野部のサイトの見学・理解がしやすいよう、看板等の整備検討を進めます	推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑩		モバイル端末などを利用した情報発信システムを整備します	推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒

4 マーケティング



エリア内において様々なジオパークの活動が進められ、その幅が広がってきていますが、ニーズの把握や、消費者および地域の人たちの動向を把握して統一的な方針に基づいて行われているわけではありません。まず、一般向けのアンケート、WEBアンケートなどの調査データなどを分析することで、一般のニーズや来訪者の動向を把握していきます。また、調査・分析結果や他地域との比較も踏まえてマーケティング戦略を策定し、ツーリズム、販売促進や普及・啓発活動に活用していきます。教育活動についても、教育現場や子どもたちへのアンケートなどを行い、ニーズを把握して、教育活動の体系化に反映させて

いきます。

情報発信について、ジオパークの認知度や理念や考え方への理解を高めジオツーリズムを推進し、来訪者を増加させるためにも、動画などの様々な方法を取り入れエリア外に向けた情報発信活動を強化することが必要です。また、国外に向けても外国語に対応した情報発信をしていくことが求められます。さらに水の旅案内人の登録者を増やすことで、情報発信量の増加やジオパークへの関心の向上を図ります。

これまで行ってきた普及・啓発活動を継続して実施するだけでなく、地域資源を活かした持続可能な地域づくりの取り組みが生まれるよう、地域住民のジオパーク活動への積極的な参画を促していく必要があります。

(1) 市場調査とプランの策定

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プランとの 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	来訪者アンケートやWEBのアクセスなどにより、ニーズの把握やジオパークへの認識調査を継続して行い分析します	白山市（観光課）、石川県文化観光スポーツ部、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
②	★	学校教育におけるジオパークの活用状況や要望を把握するため、学校での取り組みや児童・生徒の学習状況等の調査を行います	白山市教育委員会、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③	★	マーケティング戦略を策定し、活動を推進します	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	◇	⇒	⇒

(2) エリア内外へ向けた情報発信

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	新規 継続	2024	2025	2026	2027	2028
①		白山市の広報誌による情報発信を行います	白山市（広報広聴課）		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②		ケーブルテレビによる情報発信を行います	あさがおテレビ、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③		構成団体それぞれが、団体内等の既存の活動を通して、ジオパーク活動を積極的に発信していきます。	協議会構成団体、推進協議会事務局		継続	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
④		イベントやお祭りの機会を捉え、PR活動を行います	白山市（観光課）、白山青年会議所、白山観光協会、連携協定団体、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

⑤		SNSなど、インターネットを利用した情報発信を行います	協議会構成団体、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥	■ 2	QRコードを活用した情報発信を行います	協議会構成団体、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦		ロゴマークとイメージキャラクターの利用を推進します	白山市、協議会構成団体、連携協定団体、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧		鉄道駅と道の駅で情報発信を行います	白山市（観光課）、石川県文化観光スポーツ部、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) ジオパーク応援団の養成

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン評価	前プランとの関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	「水の旅案内人」(応援団)の登録者を増やし、地域全体のジオパークへの関心を高めます	協議会構成団体、推進協議会事務局		修正 継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②		「水の旅案内人」(応援団)のいるお店や施設等をHPでおすすめスポットとして紹介していきます。	推進協議会事務局		継続	◇	⇒	⇒	⇒	⇒



5 ネットワーク活動

ユネスコ世界ジオパーク認定地域は、世界ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、学びあうことで、ネットワークを積極的に活性化させジオパーク全体の発展に寄与する責務があります。国内ジオパークのネットワークの一員としては、日本のジオパーク全体の発展と発信にも取り組むことが務めです。

また、白山周辺のエリアは、ユネスコ「人間と生物圏（MAB）計画」における「生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)」に登録されています。白山手取川ユネスコ世界ジオパークの山と雪のエリアはユネスコエコパークのエリアと重複しており、連携強化が必要となっています。そのため、白山手取川ユネスコ世界ジオパークと白山ユネスコエコパークの事務局を、同じ白山市観光文化スポーツ部ジオパーク・エコパーク推進課に設置し、連携をとりやすい体制を築いていますが、連携の強化が求められます。

さらに地域で活動している団体・民間事業者やジオパークのエリア周辺の市町村などとの連携を強化し、情報発信の推進やジオパークの一体感の醸成が求められます。

(1) ジオパークネットワーク活動

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プラン との 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	国内外のジオパークと、推進協議会だけでなく住民レベルでも交流を深め、相互のジオパークの学び合いと発展を促進します	協議会構成団体、公認観光ガイド、学習支援員、連携協定団体、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②		国内外のジオパーク関連大会等へ参加し、ジオパーク同士や関係団体との相互の情報交換を進めます	協議会構成団体、公認観光ガイド、学習支援員、連携協定団体、推進協議会事務局、		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③	★	国内外のジオパーク関連大会等で事例発表を行うことで、白山手取川ユネスコ世界ジオパークの取り組みをモデルケースとして発信し、他のジオパークの活動の発展に寄与します	協議会構成団体、公認観光ガイド、学習支援員、連携協定団体、推進協議会事務局、		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
④		日本ジオパークネットワーク・世界ジオパークネットワークのワーキンググループ等に参画し、国内外のジオパーク活動を牽引する役割を果たします	推進協議会事務局		修正 継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤		日本ジオパークネットワークの事務局に参画し、国内のジオパーク活動をサポートします	白山市（ジオエコ課）、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⑥		化石や砂防、気象などの白山手取川ユネスコ世界ジオパークの特徴を活かした分野において、国際シンポジウムやワークショップを開催するなど、当該分野の研究と普及の発展に寄与します	国土交通省金沢河川国道事務所、気象庁金沢地方气象台、環境省白山自然保護官事務所、林野庁石川森林管理署、金沢大学、石川県立大学、金城大学、金城大学短期大学部、金沢工業大学、国連大学 I A S O U I K、石川県白山自然保護センター、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

(2) 白山ユネスコエコパークとの連携

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プランとの 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①		地域住民にとってユネスコ世界ジオパークとユネスコエコパークそれぞれの違いが理解できるよう、また2つの認証を相互に継続しながらお互いの発展が得られるよう、両者の連携が生み出す効果を明確にし、連携継続を図ります	白山ユネスコエコパーク協議会、推進協議会事務局		修正 継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②	★	日本及び世界のジオパーク、ユネスコエコパークのネットワークの架け橋となり、2つの認証が相補的に連携するモデルケースを国内外に提示します	白山ユネスコエコパーク協議会、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

(3) その他の連携活動

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プランとの 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	■ 2	山の暮らし×SDGsを発信します	白山市（企画課）、金沢大学、金沢工業大学、白山ユネスコエコパーク協議会、推進協議会事務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
②		ジオパークエリア周辺の市町村との連携を進め、情報共有や情報発信をおこないます	白山市（観光課）、白山市観光連盟、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
③		地域で活動している団体と積極的に連携協定の締結を進め、ジオパークとしての一体感を醸成します	推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
④	★ ■ 4	連携協定を締結する際の明確な基準や方法を定めます	推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤		民間事業者とのパートナーシップ協定制度を設けます	推進協議会事務局		新規			◇	⇒	⇒

IV 運営体制

2010年11月18日に設立された「白山手取川ジオパーク推進協議会」は現在、白山市や関係官公庁、市内の公共的団体、経済団体など36団体で構成されています。

一方で、構成団体が果たすべき具体的な役割が明確に定められておらず、事務局が主体となって事業を進めている状況にあります。したがって事務局では専門的な人材の長期的な確保が求められています。ジオパークを更に強力に、持続可能な形で推進するためには、構成団体がそれぞれの分野に応じた役割を担い、自主的に活動を推進することが必要不可欠です。同時に、エリア内の多種多様な団体で構成している推進協議会の特性を活かし、各構成団体間の連携を深め、活動を強化する取り組みが必要です。

協議会の組織内に地域のコミュニティ代表者が参画し、意思決定に参加できる仕組みを構築することや関係者間でジオパークに関する研修を実施するなどして連携を強化することが求められています。

加えて、推進協議会の運営財源は、そのほとんどが白山市からの負担金で占められています。白山手取川ユネスコ世界ジオパークの活動を持続的に進めていくためには、推進協議会の体制強化が不可欠であり、継続的な活動を支えるための自主財源の確保が必要となっています。



1 組織体制

No.	重点等	内容	実施者	前プラン評価	前プランとの関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	部会活動等を開始し、事業の実質的な検討・推進や情報交換を各部会で行います	協議会構成団体、公認観光ガイド、学習支援員、連携協定団体、推進協議会事務局		修正 継続	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
②		推進協議会の法人化について、調査・検討します	推進協議会		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③		連携強化を図るため、構成団体をはじめとする関係者間で行う研修を実施します	協議会構成団体、公認観光ガイド、学習支援員、連携協定団体、推進協議会事務局		新規	◇	⇒	⇒	⇒	⇒



2 財政計画

No.	重点等	内 容	実 施 者	前プラン 評価	前プラン との 関係	2024	2025	2026	2027	2028
①	★	賛助会員制度の導入について、 検討します	推進協議会事務局		継続	◇	⇒	⇒	⇒	⇒
②		応援寄付金付自動販売機の設 置を推進します	協議会構成団体、 自動販売機設置事 業者、自動販売機 設置個所の管理 者、推進協議会事 務局		継続	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

※ 参考

構成団体一覧

36 団体（2024 年 4 月 1 日現在）

区分	団体名
行政関係（10）	白山市
	白山市教育委員会
	国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所
	気象庁金沢地方気象台
	環境省中部地方環境事務所 白山自然保護官事務所
	林野庁近畿中国森林管理局 石川森林管理署
	石川県文化観光スポーツ部
	石川県教育委員会生涯学習課
	石川県石川土木総合事務所
	石川県石川農林総合事務所
大学・研究機関（7）	金沢大学
	石川県立大学
	金城大学
	金城大学短期大学部
	金沢工業大学
	国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
	石川県白山自然保護センター
教育・文化団体（1）	白山市小中学校長協議会
自治・市民団体（5）	白山市コミュニティセンター連合会
	白山市町会連合会
	一般社団法人白山青年会議所
	白山手取川ジオパーク友の会
	白山市防災士会

商工・観光団体 (7)	白山商工会議所
	美川商工会
	鶴来商工会
	白山商工会
	一般社団法人白山市観光連盟
	一般財団法人白山観光協会
	白山市国際交流協会
農・林・水産業団体 (5)	松任市農業協同組合
	白山農業協同組合
	手取川七ヶ用水土地改良区
	かが森林組合
	白山手取川漁業協同組合
交通 (1)	北鉄白山バス株式会社

連携協定団体一覧

25 団体 (2024 年 4 月 1 日現在)

白山しらみね自然学校	加賀白山ようござった
美川おかえりの会	雪だるま実行委員会
白山スノーフェスティバル実行委員会	白山ジオトレイル実行委員会
白山市スポーツ協会	白山一里野温泉観光協会おかみの会
東大寺領横江荘荘園まつり実行委員会	アサギマダラファンクラブ白山
白山麓ぶなもり自然塾 ※活動休止中	美川自然人クラブ
ひまわりの集い実行委員会 ※活動休止中	白山吉野地域振興協議会
白山市ふるさと歴史研究協議会	白山自然ガイドボランティア友の会
白山市松任写真同好会	一般社団法人 石川県地質調査業協会
東二口文弥人形浄瑠璃保存会	深瀬木偶回し保存会
深瀬桧細工工房	つるぎふるさと民話の会
白山温泉郷組合	Q I N O (キノ)
サテライトサークル しらみね大学村	

白山手取川ユネスコ世界ジオパークに係るユネスコからの指摘事項について

白山手取川ユネスコ世界ジオパークについては、ユネスコ世界ジオパークの基準を全て満たしているとして、2023（令和5）年5月24日にユネスコ世界ジオパークに認定されたが、その際、ユネスコカウンスル会議よりさらなる質の向上を目指すため、下記4項目についての提言があった。

指摘事項4点

(1) ジオパークエリアの境界線の明確化

現在使用しているマップを改良し、情報資料を統一して、ジオパークエリアの境界線をより正確に反映させ、地元住民や観光客が明確に理解できるようにすること

(2) ビジビリティ（可視性）の向上

①パネル更新時に、適切なロゴ表記、生物学的要素の情報、ユネスコ世界ジオパークのネットワークに関する情報の追加を検討すること

②QRコードの活用を検討すること

③地質遺産と自然・文化的な要素の関連性の発信や関連する地域固有の動植物に関する情報発信を強化すること

(3) 地質遺産の情報発信と保全

地質遺産の保全に悪影響を与えないように、またジオパーク内の観光利用を統制するために、訪問者数管理に関するモニタリング計画を策定すること

(4) パートナーシップの向上

①エリア内に関係するユネスコエコパークやその他の環境保護管理団体と効果的なパートナーシップを確立し、連携を推進することで、ジオパークのビジビリティを強化すること

②ジオパークとの連携協定の概要を示し、パートナーになるための明確な方法や基準を含むパートナーシップ戦略を策定すること

③ジオパークのロゴやブランドを活用することや、特定の宣伝資料を作成することにより、パートナーや地元生産者の認知度を高めるよう検討すること

白山手取川ユネスコ世界ジオパーク
アクションプラン 2024～2028

2024年5月28日策定

白山手取川ジオパーク推進協議会

(事務局)

石川県白山市倉光二丁目1番地

白山市観光文化スポーツ部ジオパーク・エコパーク推進課内

TEL 076-274-9564 FAX 076-274-9546

E-mail: geopark@city.hakusan.lg.jp

URL: <https://hakusan-geo.jp>